



<報道関係各位>

2017 年 12 月 13 日
一般財団法人 児童健全育成推進財団
ナイキジャパングループ合同会社

児童健全育成推進財団、ナイキをパートナーに 新しい運動遊びプログラム “JUMP-JAM” を導入

－東京都内 10 か所の児童館にて展開

児童健全育成推進財団（本部：東京都渋谷区、理事長：鈴木一光）は、このほど、ナイキ ジャパングループ合同会社（本社：東京都港区、バイス・プレジデント：クリストフ・メルケル）をパートナーに、東京都内の 10 か所の児童館で“JUMP-JAM”という新しい運動遊びプログラムを導入いたします。

“JUMP-JAM”は、ゲームを通じてスポーツと自由な遊びを融合させた運動遊びで、子どもたちの身体的、運動能力、情緒的、社会的な成長のサポートを目標としています。この運動遊びのプログラムは、千葉工業大学 創造工学部体育教室 引原有輝 准教授の監修により、日本の子どもたちの運動状況を考慮して開発したオリジナルのプログラムです。子どもたちが楽しみながら、遊びを通じて創造的に運動することのできるプログラムで、“JUMP-JAM”（ジャムジャム）という名前も、ジャンプしたり一緒に走り回ったりして遊ぶときに感じる楽しさを反映した名前になっています。新しい運動遊びプログラム “JUMP-JAM”は、今年 12 月より、東京都内 10 か所の児童館で展開いたします。

日本の子どもたちは、運動不足の傾向にあり、スポーツや遊びを通じてえられる身体的な効果や社会的、情緒的な成長のための機会を逃がしていると言われています。子どもとその保護者の優先順位は、まずは勉強や学業であり、そのための多忙な予定と遊び場が少ない東京の都市環境をあわせて考えると、習い事ではない子どもらしいスポーツや遊びを体験の機会が、現実的にとても少ないと言えます。このため子どもたちは、遊びやスポーツによる身体的、社会的、そして情緒的な効果を最大限得られないまま成長しているといえます。

子どもたちの健やかな成長を目的に全国の児童館の活動を支援する児童健全育成推進財団の総務部部長の阿南健太郎は、今回のプログラムのナイキとのパートナーシップについて、「当財団とナイキには、運動遊びを通して子どもたちが運動や身体を動かすことの楽しさや効果を発見できるよう手助けをする、という共通の目標がありました。今回の“JUMP-JAM”は、運動の基礎的スキルと自由な遊びを独自に組み合わせることにより、全ての子どもたちが、その能力向上や成長する機会を提供していきます」と話しています。

また、ナイキジャパングループ合同会社のバイス・プレジデント兼ジェネラル・マネージャーのクリストフ・メルケルは、「子どもたちは、身体を動かすことが大好きであり、遊ぶために生まれてきたと、いえます。今回、児童健全育成推進財団と組んで“JUMP-JAM”を東京でスタートさせ、運動遊びを通じて子どもたちが可能性を最大限に発揮できる機会を与えられること

をととても誇りに思います。私たちの目標は、“JUMP-JAM”で参加する子どもたちにとって、ずっと思い出に残るような前向きな遊び体験を提供すること。そして、東京の子どもたちがより健やかに成長し、また東京の子どもたちにとって運動遊びがいかに重要なものであるかに対して感じてもらうことです。」とコメントしています。

運動遊びの重要性

子どもたちの成長への可能性のためには運動は必要不可欠といえます。しかし、今の子どもたちはこれまでになく活発でない世代といえます。活発な子どものほうが次のような傾向があることといわれています。

- 画面の前で過ごす時間が少ない（テレビ、ビデオゲーム、スマホなど）
- 身体的にも精神的にも健康
- ストレスが少なく、よく寝れる
- 強固な関係性を築くことができ、協働する能力も身につく
- 学校の勉学において良い結果を残せる — 出席率や課外活動への参加率も含めて

千葉工業大学で発達学を研究し、今回のプログラムでゲームガイド作成を担当した引原有輝准教授は「研究により運動不足については世代間問題であるといわれています。人々にもっと活発に動き回ってほしいのであれば、子どもの頃から始める必要があります。12歳以前から活発であった人のほうが生涯を通して活発であり続ける可能性は高いです」と話します。さらに「スポーツと身体活動と遊びは、子どもたちからしてみると全く違うものであるということに気づかなければなりません。多くの7歳～12歳の子どもたちには、スポーツには参加するものの、それは体系的かつ多くのルールが存在するので。そして、それは技術的にうまくなければ試合などにでられない（コートの外に座っていなければならない）というのが現実なのです。子供たちにとって体育というのは、やりたいことではなく、やらなければいけないことなのです。対して運動遊びというのは楽しく、子どもたちを活発にさせ、また、それを継続させる最も効果的な方法でないかと考えています。子どもたちはそれが楽しいからこそ活発であり続けたいと思い、またスポーツほど体系的でなく、あらゆる能力の子どもたちが参加することができます」と語っています。

“JUMP-JAM”について

2017年12月から“JUMP-JAM”は東京10ヶ所の児童館で実施いたします。約700人の子どもたちを目標に、プログラムの体験やサポートを実施していきます。児童館は全ての子どもたちに無料開放されており、“JUMP-JAM”の遊びへの参加もできます。参加するにはプログラムを実施している10ヶ所の児童館のいずれかに連絡をし、その実施スケジュールを確認していただく形となります。

プログラムは、次の東京の児童館で今月から開始されます。児童青少年センターフレンズ本町、松が谷児童館、千束児童館、晴海児童館、堀留町児童館、つつじヶ丘児童館、染地児童館、興望館、江東橋児童館、東向島児童館。実施方法は児童館により異なりますが、おおむね各児童館で最低でも週に一度は“JUMP-JAM”の運動遊びを実施します。

“JUMP-JAM”のために開発されたゲームは、プログラムのガイドブックの中で児童館職員向けにそのやり方が手順つきで紹介されています。運動の難易度、運動の種類、グループの人数や場所の広さに応じた各ゲームのアレンジ方法、そして各

ゲームが引き出す社会的、感情的スキルを向上させる方法などが紹介されています。各ゲームは、スポーツをより楽しむために求められる体力、俊敏性、筋力、協調運動能力を養うために設計されています。“JUMP-JAM”のゲームはトレーニングを受けた児童館スタッフがいる安全な環境で実施され、子どもたちに必要な社会的、感情的スキルを養うことができます。ゲームのメンバーとの一体性や協働性をうながし、ゲームの勝敗を重要視せず、子どもたちの間の社交性を助長し、子どもたちに自ら考えることを求めて自己表現をうながします。

児童健全育成推進財団（FPSGC）について

FPSGC は子どもたちの健やかな成長を支える遊びを児童館で提供することによって全国各地の子どもを育む環境を創ることに尽力しています。また、FPSGC は児童館スタッフの継続的な学びと成長の重要性を認識し、トレーニングやワークショップを通じてこれを支援しています。

<http://jidoukan.or.jp/>

ナイキ・コミュニティー・インパクトについて

ナイキは人間の可能性を解き放ち、コミュニティーを形成する上でスポーツが持つ力を信じています。我々はこの信念を、Made to Play というスポーツと遊びを通して子どもたちに体を動かしてもらい、より健康的で幸福で成功する人生を送ってもらうための我々のコミットメントの中で突き進めています。地域のパートナーおよび世界中の社員とともに、我々は1400 万人以上の子どもたちを明るい未来に向けて遊び、走り、飛び回らせています。子どもたちをもっと活発にする、そして全ての子どもたちが能力に関わらず平等に遊べる場をつくるためのナイキのコミットメントについてもっと知りたい方はリンクをご確認ください。

<https://communityimpact.nike.com/>

■ 報道官の方のお問い合わせ先

“JUMP-JAM”広報事務局 大神・入澤・岩崎・林・岩垂 TEL:03-4531-0204